

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



3月号 発行 平成26年 3月 26日

〈東日本大震災関連〉



いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行ったいわき地方の2月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物の検査結果(2月末現在)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
5品目 22検体	1品目 2検体	0品目 0検体	6品目 24検体

検査した6品目24検体のうち、5品目22検体は、検査機器の検出限界値以下でした。品目としては、菌床なめこ(施設)、菌床しいたけ(施設)、ナバナ(施設)、牛肉、原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした。

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

菌床なめこ(施設) 2	菌床しいたけ(施設) 2	ナバナ(施設) 1	牛肉 11	原乳 3
-------------	--------------	-----------	-------	------

なお、2月のモニタリング検査では、ふきのとう(野生)について5検体を検査しましたが、3検体は、検査機器の検出限界値以下、放射性セシウムが検出されたが基準値内だったものが2検体ありました。

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

	ふきのとう(野生)	計
検体数	5	5
基準値内	5	5
内 検出数(最大値)	2(19.2)	2
検出限界値以下	3	3

[() 内単位: μ クル/kg]

なお、2月28日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、表4のとおりです。

(表4) 出荷制限及び出荷自粛品目(2月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	無
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛	畜産物	無
	山菜	さんしょう(野生のものに限る。)

また、昨年に引き続き平成25年産の米についても全袋検査を実施しており、2月末までの検査点数555,470点のうち、99.96%の555,231点が測定機器の測定下限値未満、239点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありません。

(表5) 玄米(平成25年産)検査状況(2月末現在)

	測定下限値未満(<25)	25 ~ 50	51 ~ 75	76 ~ 100	100超	計
検査点数(点)	555,231	236	2	1	-	555,470
割合(%)	99.96	0.04	0.00	0.00	-	100.00

(列単位: μ クル/kg)

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成24・25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

〈一般情報〉



2月上旬に発生した降雪等に 伴う被害状況について

平成26年2月8日～9日及び14日～16日の降雪に伴う農林水産業関係被害の状況について報告します。

福島県全体の被害額は、約10億131万円（平成26年3月24日現在）で、そのうちいわき管内での被害額は、約6,843万円となっています。

（表1）いわき管内の被害の状況

区分	被害件数 (件)	被害額 (千円)
1 農業関係	92	29,692
(1) 農作物	2	2,984
ア 果樹	1	2,826
イ 果樹(親株)	1	158
(2) 農業関係施設	90	26,708
ア 耕種関係	52	1,775
イ 畜産関係	3	14,935
ウ 園芸関係	33	9,107
エ その他	2	891
2 林業関係	18	38,736
ア 森林	14	8,886
イ 林産施設	4	29,850
合計	110	68,428

県では、とり急ぎ、農業共済組合に対し迅速かつ適切な損害評価の実施及び共済金の早期支払いを依頼するとともに、融資機関に対し資金の円滑な融通、既貸付金の償還猶予等について依頼しました。

また、2月26日より、早期の施設復旧等に必要な資金の調達を支援する災害特別資金の受付を開始しました。

さらに、パイプハウス等の早期復旧を支援する新たな支援策を検討しています。

なお、平成26年2月7日と14日には、農業技術情報「大雪と暴風雪に関する農作物等の技術対策」を発表し、技術対策の周知を行い、2月17日には、農業技術情報「雪害を受けた農作物等の技術対策」を、2月21日には、農業技術情報「雪害を受けた施設野菜等の栽培技術に関する情報」を発表しました。

最新情報をご覧になりたい場合は、福島県ホームページをご覧になるか、いわき農林事務所までお問い合わせください。



（倒壊したビニールハウス）



（倒壊したビニールハウスの内部）



活動の締めくくり 「田んぼの学校」成果発表会・修了式

2月13日（木）、市立赤井小学校において、県のふくしまの農育推進事業「田んぼの学校」第8回目となる「成果発表会・修了式」が行われました。

今年度最後の活動となる成果発表会では、来年度「田んぼの学校」に取り組む4年生への引継ぎとして5年生が“田んぼの先生”となり、1年間の活動内容を発表しました。5年生8班が6つのテーマに分かれ、学んだことや心に残ったことを1枚の壁新聞にまとめ、4年生へ説明しました。5年生は、壁新聞にイラストや図表、クイズを取り入れるなど、4年生が理解しやすいよう様々な工夫をして一生懸命説明しました。4年生も熱心に聞いて分からないことは質問するなど、活発な意見交換ができました。発表会終了後、1年間お世話になった地元協力農家の根本俊男さんが5年生一人ひとりに修了証書を手渡し、1年間の成果をたたえました。

今回の活動を通して、4年生は来年度自分たちが取り組む活動への意識を高め、5年生は一年間の総括と引継ぎをもって、これまでの活動の締めくくりとすることができたようです。

来年度も、同校で行われる「田んぼの学校」にご期待ください。



(活動内容を説明する5年生)



(意欲的に質問する4年生)



(ひとりずつ修了証書を受け取りました)



(根本さん[写真中央]と記念撮影)



栽培の労力軽減を目指す いちじくセミナー

2月13日(木)、JAいわき市いちじく部会いちじくセミナーが開催され、市内の農業者15名が参加しました。毎年、この時期に行う作業である「せん定」について、座学と現地実演を行うとともに、いちじく栽培における課題について対策を説明しました。

今年は、生産部会の高齢化に対応するため、せん定作業の省力・軽労化を図る「電動せん定ばさみ」を紹介しました。いちじくは、太さが2~3cmの枝を切る必要があるため、通常はのこぎりを使用しますが、電動ばさみを使用することで時間の短縮と軽労化を図ることができます。

体験された部会員からは、「使いやすい」、「女性でも負担を感じない」といった感想を聞くことができました。今後も作業の効率化を進め、品質の良い「いわきいちじく」の提供に努めます。



(電動せん定ばさみで大枝を試し切り)



商品開発のノウハウを学ぶ 6次化ネットワーク交流会

2月21日(金)、県いわき合同庁舎において、いわき地域産業6次化運営会議(事務局:いわき地方振興局、いわき農林事務所、水産事務所)主催による平成25年度第2回いわき地域産業6次化ネットワーク交流会が開催され、約60名が参加しました。

この交流会は、農林水産業の振興のみならず、東日本大震災からの復旧・復興の手段としても注目されている地域産業6次化をさらに推進することが目的です。

まず、会津地方を中心に「地域の食」を活かした地域の活性化に取り組んでいるNPO法人素材広場横田純子理事長が、「6次化商品の販売企画事例と地域活性化の手法」と題して講演を行いました。

講演の中で横田理事長は、リクルートを退職し独立した後、第1段階として宿と生産者をつなぐ事業を始めたこと、第2段階としてNPO法人素材広場を立ち上げ宿と生産者をつなぐ事業のシステムづくりを行ったこと、現在は、福島県内の生産者の情報収集、宿のコンサルティング業務、チラシやPOP等の納入など、さまざまな事業を行っていることを説明しました。

さらに、NPO法人素材広場が手掛けた“温泉旅館の朝食バイキング改造”や“会津地鶏のささみを使った生ハム開発”、“ノンアルコールミード酒の開発”などの例をあげ、6次化商品開発・販売のポイントについて、本物であること、ストーリーがあること、他にないもの、身の丈にあった販売先、作り手の想いを伝えるパッケージの5点を参加者にアドバイスしました。

参加者が6次化商品を開発・販売するに当たっての大きな参考となったようです。

次に、地域産業6次化へ向けた取り組みの報告として、彩花園の遠藤菊男代表が県の新生ふくしま食産業チャレンジ応援事業（福島県中小企業団体中央会委託事業）を活用し、(株)いわきチョコレート柳沼大介代表取締役のアドバイスを受けながら自分の農地で栽培しているマコモタケを利用して取り組んだ“ヘルシーベジ【広葉マコモ】の丸ごと活用プロジェクト”について、商品開発に取り組んだ遠藤代表やアドバイスした柳沼代表取締役から発表がありました。

また、いわきの農林水産物を活用したいわきの特産品を創出することを目的として実施した地域特産品創出事業について、委託先の(株)福島インフォメーションリサーチ&マネジメント橘あすか代表取締役から報告がありました。

最後に、試食交流会が行われ、地域産業6次化へ向けた取組報告で開発について報告があった「若草色のカップシフォン」「そよ風のラングドシャ」「梨アイス」「日本酒ジェラート」「ネギジェラート」の5点の6次化商品を試食をしながら、参加者同士が親交を深める交流会が行われました。

交流会では、おいしい6次化商品を味わいながら、参加者同士が懇談している様子が見られました。



(商品開発のコツについて話す横田理事長)



間伐材の利用方法を模索 林業活性化講演会

3月3日(月)、磐城流域いわき地区林業活性化センター主催による林業活性化講演会がいわきワシントンホテル椿山荘で開催されました。

この講演会は、間伐の推進と間伐材の有効利用を図ることを目的に毎年開催しているもので、林業事業者や森林ボランティア関係者など約30名が参加しました。

今回は、NPO道志・森づくりネットワーク、道志村地域おこし協力隊の大野航輔氏を講師として招き、「間伐材の熱エネルギー利用から、地域社会の自立発展に向けて」という演題で講演が行われました。内容は、林内に放置されている間伐材を搬出して温泉施設の薪ボイラーの燃料として利用しており、この取り組みにより化石燃料削減と木質バイオマス燃料利用によるコストの削減、更には、木質バイオマス燃料の搬出利用に伴い新たな雇用が生まれたということでした。

今回の講演会をきっかけに、いわき地方における木質バイオマスの利用推進に繋がればと思います。



(成功事例を真剣な様子で聞く参加者)

新たな担い手の確保へ いわきねぎ栽培説明会

3月5日（水）、JAいわき市本店大会議室において、ねぎの新規作付け希望者を対象とした栽培説明会を開催しました。

県では、平成25年度から、「新たなふくしまの未来を拓く園芸振興プロジェクト」を展開しており、いわき地方では、「ねぎ」、「いちご」、「日本なし」を重点品目として、関係機関と連携して産地復興に取り組んでいます。

いわきは、県内一のねぎ産地ですが、生産者の高齢化により産地の縮小が問題となっているため、新たな担い手の確保を目的として、今回、説明会を開催しました。

説明会には、新規作付けを希望している生産者等14名が参加し、その他営農・販売をサポートする関係機関が多数出席しました。

JAいわき市よりねぎの販売流通と営農支援体制について説明し、いわき農林事務所からは、ねぎ栽培の概要についてスライドを使って説明しました。参加者の皆さんは、新規作付けに向けて、これらの説明に熱心に聞き入っていました。新たないわきねぎ生産者の仲間入りをしていただければと期待しています。



（ねぎ栽培の説明に聞き入る参加者）



法定伝染病への対応を議論 いわき地方連絡会議

3月7日（金）、県いわき合同庁舎において、特定家畜伝染病防疫マニュアルの策定に関して福島県高病原性鳥インフルエンザ・口蹄疫対策いわき地方連絡会議を開催しました。

「高病原性鳥インフルエンザ」及び「口蹄疫」は、家畜伝染病予防法で指定された「法定伝染病」であり、共に、伝染性が強いという特徴があることから、発生した場合は、迅速な対応が求められます。

連絡会議は、これまで関係機関や関係団体等の職員が連携し、初動防疫に迅速・的確に対応できるよう防疫演習や机上演習を行ってきました。

今回の会議では、これまでの「高病原性鳥インフルエンザ発生時におけるいわき地方対策本部初動作業マニュアル」を見直した「特定家畜伝染病いわき地方防疫作業マニュアル」（案）について、皆さんからのご意見をいただきました。

新たなマニュアルでは、これまでより具体的に業務分担と業務内容について整理し、また防疫作業内容についても具体的にまとめてあります。調整中の内容もありましたが今後確認を進めることとし、万が一の発生時にスムーズな初動防疫体制がとれるよう、マニュアル策定を進めてまいります。



（意見を交わす参加者）

〈コラム〉



食品表示のマメ知識

シリーズ最後の3回目は、「食品表示の一元化」です。

現在、食品の表示に関する規制については、主に原産地や加工食品の原材料名など商品選択に資するための「JAS法」の他に、食品添加物、アレルギー物質、遺伝子組換え食品などの衛生・安全性確保の面から定めた「食品衛生法」や栄養成分表示を定めた「健康増進法」などがありますが、複数の法令に分かれて規定され、複雑でわかりにくいとの声がでていました。

このため、消費者、事業者双方にとってわかりやすい表示をめざし、消費者庁において検討が進められ、これら3つの法律の食品表示に関する規定を統合した「食品表示法」が平成25年6月に成立しました。（2年以内に施行されることになっています。）

この法律では、JAS法及び食品衛生法の表示規定が整理・統合されるとともに栄養成分表示も新たに表示が義務付けられました。

現在、消費者庁において、食品表示法に基づく「食品表示基準」の策定に向けた検討が進められています。

今後、これらの新たな表示基準に基づく表示が求められる食品事業者をはじめ、問い合わせの窓口となる農林事務所や保健所においては、具体的な規制内容等に関する策定の動きに注視していく必要があります。

食品表示法の概要や表示一元化に関する情報については、消費者庁のホームページで入手することができます。

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。
<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」及び「原発事故」からの復興のために！

ふくしまからはじめよう。
Future From Fukushima.

皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://pref.fukushima.lg.jp/36270a/>

いわき農林水産ニュース

